

# 学習者用デジタル教科書 授業改善事例集

## ～学習者主体の学びに向けたデジタル教科書の活用～

---

令和7年度 学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業



## 目次

本書の見方 p.2

授業改善事例 p.3

- |    |                  |   |
|----|------------------|---|
| 1. | 外国語(鹿屋市立鹿屋中学校)   | 4 |
| 2. | 越前町立糸生小学校(算数)    | 5 |
| 3. | 奈良市立ならやま小中学校(国語) | 6 |
| 4. | 山都町立矢部中学校(理科)    | 7 |
| 5. | 深谷市立藤沢中学校(社会)    | 8 |

デジタル教科書活用のポイント p.9

Appendix p.10

## はじめに

～授業や教科書の在り方を再考する機会に～

全国どの地域も端末環境の更新の時期となり、NEXT GIGAへと移行しています。デジタル学習基盤としての活用や研修も進みつつあります。

そのような中、中央教育審議会の議論でも、自己調整の力を子供一人一人に培うことや、教科書のあり方も「教科書を教える」から「教科書で教える」という方向性が示されています。今まで以上に、教師の役割が問われることになっていくものと推測します。

そして、これまでの実証研究事業により、デジタル教科書の使用頻度が高いほどデジタル教科書の使用感を肯定的に捉えていることが明らかになっています。一方で、課題として、デジタル教科書をどのように授業で活用すれば良いか分からない、教員研修をどのように行えば良いか分からないという話もお聞きしています。

「教科書の発行に関する臨時措置法」第2条によると、教科書とは、「(略)教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書(略)」と示されています。一方で、デジタル教科書は、これまでの教師が教えるためだけの教科書から児童生徒が学ぶための教科書へと移行していると言えます。特に、児童生徒個々の実態に合わせて、教科書をカスタマイズできることは、子供差配の学びに大変有効に働いています。

そのような中、読むだけの教科書から、書く教科書、聞く教科書、共有する教科書へと、さらに、これまでの一斉授業が主だった使い方から、児童生徒自身で学習が最適となるよう自己調整するような使い方へと、教科書の位置付けを見直し、授業の在り方を変革していく必要があります。

そこで、「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」の「授業改善事例集」及び「研修事例集」を、ここに公開することにしました。デジタル教科書の活用の仕方にとどまらず、授業や教科書の在り方について、再考する機会にいただければ幸いです。

令和7年度  
学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業

主査

中川一史

(放送大学・教授)



# 本書の見方

令和7年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」(以下「本事業」という。)では、小学校2校・中学校3校を「実証研究校」(以下「実証校」という。)として選定し、外国語、算数・数学、国語、理科、社会の5教科で、有識者(p.12参照)の指導助言の下、デジタル教科書をはじめとするICT機器等(以下「デジタル教科書等」という。)を用いた授業改善に取り組みました。本書では、各実証校で取り組んだ内容を「授業改善事例」として、下図のとおり、各教科1ページにとりまとめています。また、教科を横断したデジタル教科書等のポイントも紹介しています。

なお、本書はあくまで授業実践の概要を端的にまとめたものであり、更なる詳細については成果報告書もあわせて参照ください。

成果報告書(授業改善に関する調査研究): [https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_2.pdf)

## 授業改善事例(p.4~8)

## デジタル教科書活用のポイント(p.9)

- 1 各実証校で取り組んだ授業の概略(主な活動内容)
- 2 授業の活動のうち、デジタル教科書等を活用した授業改善のポイントを抽出し、具体的な活用方法やそのねらい、教師の指導上の工夫等を紹介
- 3 各事例は、QRコードから報告書及び動画形式でも確認可能(概要はp.11で詳述)

- 4 5教科の間で共通するデジタル教科書の活用ポイントを紹介
- 5 各活用ポイントにおいて教師が指導する際に留意すべき点も併記

## 授業改善事例

---

## 授業実践前



- A** 多様な学習リソースがあるものの、「その学び方にどのような効果があるか」を生徒が理解しきれていない。
- B** 生徒は教師に指示されたことのみに取り組む傾向が強く、自分で学び方を考える機会が少ない。



改善

- A** 学習の目的に応じてデジタル教科書の各機能を活用し、それぞれの効果を理解した。
- B** 自分の課題や目的に応じて、デジタル教科書を中心とした学び方を主体的に選択するようになった。

## 授業実践後



## 授業展開

### ■ 単元 : Program8 Happy New Year! (3/9時)

単元末ではALTのビデオレターを聞き取り、感想を伝える活動を行う。本時では、ビデオレターでも使われる「現在進行形」を用いた会話を続ける活動に取り組む。その際に、デジタル教科書を活用し、自分に必要な表現を選んで練習する。

### ■ 授業の流れ

#### 導入



学級全体

- 単元ゴール(ALTのビデオレターを聞き取り、感想を伝えること)を再確認。
- 本時のねらい(現在進行形を用いた会話)を共有。



ペア

- 生徒がペア相手を初詣に誘うために「今何をしているか」を問う電話場面を設定。現在進行形を用いたやり取りを行い、自分に必要な(言えなかった)表現を意識。



学級全体

- 現在進行形の表現が使われている教科書の対話文の場面を確認。その際に、大型提示装置にデジタル教科書内のイラストを提示。

#### Point A

- 各自で対話文の音声デジタル教科書で聞き、「言えなかった表現」の習得に向けて学習。
- 表現の習得に向けて、デジタル教科書の速度変更機能や単語練習機能が使えることを授業者から紹介。

#### 展開



個別

- 生徒が個別で習得した表現を活かし、上記の電話場面に再挑戦。



ペア

- 新出表現や既習事項を使用しているやり取りなど、良い取り組みをしているペアを指名し、全体共有。



学級全体

#### Point B

- 各自でデジタル教科書を含めた本時の「学び方」を振り返り、学習支援ソフト上に、本時の学習内容・学習方法・成果・課題を記入。

#### まとめ



個別

## デジタル教科書等を活用した授業改善のポイント

### デジタル教科書の各機能を「学習の目的」と結びつけて活用

#### Point A

#### ■ 本時の課題を明確化し、デジタル教科書を使った学習を動機づけ

授業冒頭では単元ゴールや本時のねらいなど、生徒が「目指す姿」を具体化。その上で、ペアでのやり取りなどの活動に取り組むことで、自分に足りないところ(課題)への気づきを促す。生徒がその後の個別学習に目的をもって取り組めるようにする。



▲本文の聞き取りを行う様子

#### ■ デジタル教科書の各機能を目的に合わせて使い分け

「正確な聞き取りには速度変更機能」「新出表現の練習には単語練習機能」というように、授業者が「学習の目的」別に機能を紹介。

生徒は、「学習の目的」に応じてデジタル教科書の各機能を使い分ける中で、「どの機能がどの学習に有効か」を実感。デジタル教科書を課題解決のための学習手段として位置付ける。



学びの使い方

生徒が各自のペースで必要な機能を組み合わせて使うことで、課題解決に繋がやすくなる。

### 生徒が学び方を振り返り、「目的」に沿った自発的な選択を促進

#### Point B

#### ■ 良い取組と学び方を全体共有

授業者は中間指導として、良い取組をしている生徒やペアを指名し、学級全体で共有する。単に結果を評価するのではなく、当該生徒から「デジタル教科書を使ってどのように取り組んだか」を引き出すことで、生徒が自分の学び方を見直す視点をもてるようにする。

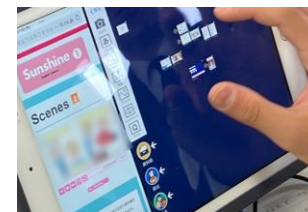
#### ■ 学び方の振り返りを通して、今後の学びに接続

生徒は学習支援ソフト上に、学習内容・学習方法・成果・課題を記入。振り返りを通してデジタル教科書等の効果を意識し、今後の学習で目的に応じた学び方を自発的に選択する姿勢を促す。



学びの使い方

デジタル教科書と学習支援ソフトを2画面で表示することで、本時で学習した内容に立ち戻りながら、自分の学び方を具体的に捉えられる。



▲デジタル教科書も見ながら学習支援ソフトに振り返りを記入

詳しく  
報告書  
で読む詳しく  
動画  
で見る

(p.28~43)

## 授業実践前



- A** 特に算数が苦手な児童は、見直しをもって問題解決に臨むことができないときがある。
- B** 自分の考えを表現することが苦手な児童が多く、児童の考えを基にした対話が生まれにくい。



改善

- A** デジタル教科書や他の児童の考えを参考にしながら、解決の見直しを立て、自力解決に繋げることができるようになった。
- B** 他の児童との学び合いを通じて、自分なりに考えを表現しようとする様子が見られるようになった。

## 授業実践後



## 授業展開

## ■ 単元：変わり方（3/6時）

本時では、伴って変わる2つの数量の変化の関係性を見出す。デジタル教科書の表やコンテンツを使って変化の様子を整理しながら、関数的な見方・考え方を働かせる。

## ■ 授業の流れ

## 導入



学級全体

- 本時の課題(以下)をスクリーンに投影し全体で見直しを確認。
- 1辺が1cmの正方形を並べて下のような階段の形を作ります。  
10段目のまわりの長さを求める簡単な方法を見つけよう。



## Point A

- デジタル教科書のコンテンツ(PointAの写真)を使うと、考えを整理しやすいことを伝え、活用を促す。

## Point B

- 学習支援ソフトに、課題に対する自分の考えを表現させる。
  - 課題に対する自分の考えをペアで伝え合う。
  - 数名の児童を指名し、全体に発表させる。
- 授業者が、児童の発表内容をもとにしながら、伴って変わる2つの数量の関係性を、「段数×4=まわりの長さ」のように言葉の式で整理し、全体で確認する。

## Point A

- 追加課題の「20段目のまわりの長さ」に、ペアで取り組む。

- 本時の振り返りを学習支援ソフト上に記入。

## まとめ



個別



個別



ペア



学級全体

## 展開

## デジタル教科書等を活用した授業改善のポイント

## デジタル教科書や他者の考えを参考に、課題解決の見直しをもつ

## Point A

- 視覚的なコンテンツを使って課題解決の見直しを持たせる**  
デジタル教科書には、視覚的な理解を促す豊富なコンテンツ(例:図形を動かせるシミュレーション等)が掲載されているため、子供たちは、それら进行操作しながら課題解決の見直しをもつことができる。
- 他の子供の考えも参考に、解決の糸口を掴む**  
つまづいている子供は、学習支援ソフト上で共有された他者の考えからヒントを得て、課題解決の見直しをもつこともできる。ただし、他者の考えを単に踏襲するだけの“デジタルカンニング”にならないよう、予め、つまづいている点や疑問点を明確にし、課題解決にあたり必要な情報は何かを意識させることが重要。  
また、学習支援ソフトで考えを交流する際には、つまづきや疑問点も共有し、全体でその解決策を考えることで、子供たちの「助けよう」という気持ちを刺激し、教え合いを引き出せる。

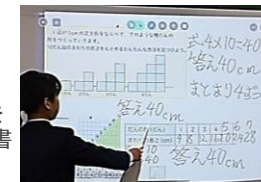


▲コンテンツ进行操作し、書き込みながら問題を解く様子

## 他者に“分かりやすく”伝えることを意識して、自分の考えを整理

## Point B

- 書き消しを繰り返し、試行錯誤しながら自分の考えを整理**  
デジタル教科書は書き消しが容易なため、子供たちはためらいなく文字や補助線を書き込むことが可能。また、その内容をスクリーンショットし、学習支援ソフト上で再整理することも簡単である。このように、ICTは試行錯誤しながら考えを整理する場面で有効。  
また、考えを整理する際、式と答えだけでなく、図・言葉等でポイントを補足させ、他者に“分かりやすく”伝えることを意識させると良い。
- 相手意識をもって分かりやすく説明する**  
ICTで考えを見せるだけで相手が理解できる訳ではない。説明箇所を指し示しながら伝える等の工夫は必要不可欠。その際、デジタル教科書の図表を使うと、説明の要点を視覚的に補足することができる。



▲自身の考えのポイントを指し示しながら、説明する様子



学習の軌跡

デジタル教科書で試行錯誤した過程をスクリーンショットし、学習支援ソフトで共有すれば、答えまでのプロセスも説明しやすい。

# 複数の情報を関連付け、 他者の考えを取り入れながら、自分の考えを深める



詳しく  
報告書  
で読む  
(p.45~59)



詳しく  
動画  
で見える

## 授業実践前



- A** 自分の考えを整理する際に、1つの叙述や表現のみを考えの根拠とし、物語全体を俯瞰して捉えることが難しい児童が多い。
- B** 他者の意見に触れる場面はあったものの、それらを踏まえて、自分の考えを発展させる姿はあまり見られない。



改善

- A** デジタル教科書を活用して、複数の叙述や表現の関連を見出し、それらを基に自分の考えを整理できるようになった。
- B** 他者に分かりやすく説明しようとする過程で、自身もまた、他者の視点や整理方法を取り入れようとする姿が見られるようになった。

## 授業実践後



## 授業展開

### ■ 単元：海の命（4/10時）

本時では、各児童が設定した中心課題(例:なぜ太一はクエを殺さなかったか)に対する自分の考えを整理する。その際、関連する叙述や表現に線を引いたり、抜き出したりしながら、物語の表現や描写を読み取り、他者と交流して、考えを深めていく。

### ■ 授業の流れ

導入



学級全体

- ・学級全体で本時のめあてを確認し、学習の見通しを立てる。



個別

- Point A**
- ・前時に設定した中心課題について、各自が考えを深める。その際、関連する叙述や表現に着目して、本文に書き込んだり、抜き出したりしながら、デジタル教科書に整理した内容を取りまとめる。

展開



グループ

- Point B**
- ・各自が取りまとめた中心課題に対する自分の考えとその根拠をグループ内で意見交換する。



学級全体

- Point B**
- ・学級全体で意見交換を行う。その際、児童は自分の考えを端末に表示した上で自席に置き、自由に教室内を歩きながら、他の児童の考えを参照する。
  - ・他者から得た視点や気づきを踏まえ、デジタル教科書を活用して、再度考えを整理する。

まとめ



個別

- ・本時で学んだ内容を振り返り、フォームに記入させる。

## デジタル教科書等を活用した授業改善のポイント

### 複数の叙述や表現を関連付けながら、自分の考えを整理する

Point A

- **本文に色分けして線を引いたり、抜き出した文章を自由に配置して、関連付ける**  
デジタル教科書を活用し、色分けして線を引いたり、必要な文章を抜き出して自由に配置しながら、情報を視覚的に整理する。これらの機能を活用して、複数の叙述や表現の関係に着目しながら、考えを深めることを促す。
- **個々に適した方法で考えをまとめる**  
抜き出し機能を活用し、抜き出した文章を矢印を用いて関連付ける等、個々に適した方法で考えをまとめられる。また、普段の授業から、デジタル教科書进行操作する機会を十分に設け、各自がそれぞれの機能の良さを見つけ、自分なりに使いこなせるように促す。



▲矢印を用いて複数の文章を関連付けながら整理している様子



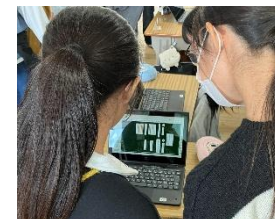
デジタル教科書の使い方

各児童がデジタル教科書の機能を必要に応じて組み合わせることで、個々に適した形で情報を柔軟に整理できる。

### 他者に分かりやすく考えを伝え、多様な学びを取り入れる

Point B

- **自分の考えを他の児童に分かりやすく伝える**  
中心課題に対する自身の考えを、デジタル教科書で整理した内容を提示しながら説明することで、考えと根拠の関係を視覚的に示しやすくなる。そのため、口頭での表現に不安のある児童にとっても、他者に自分の考えを分かりやすく伝えることに繋がる。
- **他者の視点や整理方法を取り入れて、考えを再整理する**  
デジタル教科書を活用することで、抜き出した文章や加筆した考えを自由に配置でき、他者の視点を踏まえて、再整理する際に有効である。整理方法に悩む児童がいる場合には、整理に工夫が見られる児童を全体の前で紹介すると、見通しをもたせることができる。



▲児童同士で意見交流をしている様子



デジタル教科書の使い方

紙のノートでは途中で構成等を変更しにくい一方、デジタル教科書の抜き出し機能等を活用することで、意見を容易に反映できる。



## 授業実践前



- A** 情報同士を適切に関連付けて整理することが難しい生徒が多い。また、それらの生徒は自分の考えを基に発表することも苦手である。
- B** 考えを上手く他者と交流できず、グループ活動において役割が曖昧なまま学習が進む場面が多い。



- A** 学習内容を現実の事象と関連付けて捉え、整理した内容を根拠として、自分の言葉で発表する姿が見られた。
- B** 他者の意見を踏まえて考えを深めながら、役割分担して、協働的に学習を進める様子が見られた。

## 授業実践後



## 授業展開

## ■ 単元：大気の動きと日本の天気(7/9時)

本時では、同校の生徒が暮らす熊本県山都町における授業日翌日の天気を、班ごとに予測し、気象予報士になりきって発表させる。授業では、デジタル教科書と学習支援ソフトを活用し、情報を収集・整理して、全員で協力して発表するように促す。

## ■ 授業の流れ

## 導入



学級全体

- 本時の学習課題、めあて(ルーブリック)、学習の流れ等を、学級全体で確認し、学習の見通しをもつ。



個別

## Point A

- 前時に、生徒一人一人が学習支援ソフトに取りまとめた「天気の予測」を再確認する。なお、予測は、デジタル教科書の本文や図表と、リアルデータ(実際に使われている天気図、等圧線図等)から、生徒が必要な情報を選択・関連付け、風向や生活への影響(洗濯物等)も含めて整理。
- 各自が取りまとめた予測をグループ内で順に発表する。

## Point B

- デジタル教科書と学習支援ソフトを組み合わせ、各自の予測を比較・参照しながら、グループ内で意見を整理する。
- 役割分担の上、全体発表に向けて準備する。

## Point A

- グループごとに整理した予測を気象予報士になりきって発表する。なお、発表時には、グループ全員が必ず発言する。

## 展開



グループ



全体

## まとめ



個別

- 天気を予測するために活用した情報や、予測のポイントを全体で確認する。

## デジタル教科書等を活用した授業改善のポイント

## 多様な情報を関連付けて整理し、根拠を基に自分の言葉で発表

## Point A

## ■ 学習内容を現実の現象と関連付ける

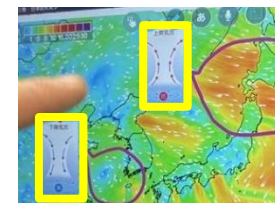
デジタル教科書のスクリーンショット機能を活用し、教科書に示された図表を切り出して、天気図や等圧線図等のリアルデータと並べて提示し、関連付けるように促す。これにより、生徒に学習内容を現実の現象と結び付けて捉えてもらう。

## ■ 整理した内容を根拠に発表する

デジタル教科書を活用して、整理した内容を根拠として、全ての生徒が発表する機会を設定する。整理した内容を手元で確認しながら話せるようにし、原稿をただ読み上げるのではなく、自分の言葉で考えを伝える発表に繋げる。



デジタル教科書とリアルデータを組み合わせ、線を書き込んだりしながら説明することで、視覚的な理解を促しやすい。



▲デジタル教科書の図表(黄色枠内の画像)とリアルデータを並べて、関連付けながら説明している様子

## 学習支援ソフトと組み合わせ、比較参照や役割分担を容易に

## Point B

## ■ 他者の考えを比較参照し、考察を深める

デジタル教科書で整理した内容を学習支援ソフト等を通じて共有し、他の生徒の考えを画面上で相互に確認できるようにする。これにより、意見の違いや共通点に着目した考察により多くの時間を充てることができる。

## ■ 効率よく役割分担しながら、協働的な学習を促す

グループ内で図表整理や発表構成の作成等を役割分担し、デジタル教科書と学習支援ソフトを組み合わせその内容を共有することで、全員で協力して発表するように促す。



デジタル教科書と学習支援ソフトを組み合わせることで、紙媒体のように書直しや掲示の手間をかけることなく、複数の考えを並べて比較参照できる。



▲班内で意見を比較参照している様子



詳しく  
報告書  
で読む  
(p.78~93)



詳しく  
動画  
で見る

授業実践前



- A** 理解に時間のかかる生徒は自分の考えや疑問点が明確でないまま、話し合いに参加するため、意見交換の参加度に差がある。
- B** 手を挙げて発言することに苦手意識を持つ生徒が多く、発表者に偏りがある。



- A** 自分で資料を読み取り、考えをワークシートに整理する時間を確保したことで、生徒は考えを持って意見交換に参加できた。
- B** ジグソー法(協働的な学習の手法の一つ)を採用したことで、生徒一人一人が自分事として学習に臨み、発言機会が増加した。

授業実践後



授業展開

■ 単元：明治維新(2/3時)

本時では、明治維新で「武士」「農民」「都市の人々」の3つの立場が経験した変化を捉える。グループ内でその3つの立場に分かれ、担当の立場について、デジタル教科書で調べながらまとめ、考察する。その後、ワークシートを持ち寄り、意見交換を行う。

■ 授業の流れ

導入



学級全体

- 全体で前時の復習をし、本時の課題「明治維新で武士、農民、都市の人々にどんな変化があったのか」を提示。
- グループ内で「武士」「農民」「都市の人々」の担当に分かれる。



個別

Point A

- 自分の担当の立場が経験した変化について、デジタル教科書中で参考となる資料を探しながら、個人で考察し、ワークシートにまとめる。



ペア

Point B

- 同じ立場を担当する生徒同士で集まり、ワークシートを見せ合いながら説明を行う。
- 他の生徒の考えやワークシートへの記述を踏まえて、自分のワークシートを修正する。



ペア

Point B

- 最初のグループに戻り、ワークシートを見せ合いながら、資料から読み取ったことや、考えたことを説明し、意見交換。



学級全体

- 最初のグループで、発展課題「なぜ明治政府はこのような政策を進めたか」に取り組み、学級全体で共同編集できるワークシートに、グループの考えを記入
- 必要に応じてグループ間の相互参照
- 学級全体で意見を共有し、明治維新の政策の方針を理解する。

まとめ



個別

- 授業者が本時の重要な点を板書し、生徒も本時を振り返る。

デジタル教科書等を活用した授業改善のポイント

各自で資料を読み取り、目的意識を持って意見交換に参加

Point A

- **デジタル教科書中の資料を拡大表示し、詳細な内容まで確認**  
デジタル教科書中の資料は自由に拡大して表示できるため、生徒は資料の細部まで読み取ることができる。
- **デジタル教科書中に書き込みしながら考えを整理**  
デジタル教科書は、簡単に書き込み、きれいに消すことができる。資料に書き込みながら考えを整理する際に有効である。



▲金貨の写真を拡大表示し、細かい文字まで確認の様子



デジタル教科書の使い方

デジタル教科書では、資料だけでなく、教科書本文も拡大表示し、ペンやテキストボックスで書き込むことができるため、本文中の特定の箇所だけ集中して読む際に有効である。

根拠に基づいた発表準備と、発表機会の確保

Point B

- **根拠となる資料をデジタル教科書から引用し、ワークシートに整理**  
デジタル教科書と学習支援ソフトのワークシートを使えば、教科書の資料をキャプチャし貼り付けて考えを整理することが容易である。また、紙と異なり、資料や書き込んだ内容は、即座に移動や拡大縮小・並び替えできる。そのため、ワークシートの書き直しや構成の変更が簡単であり、生徒が試行錯誤をしやすい。
- **グループで各自が考えを共有する時間を設け、生徒の授業参加を促進**  
ジグソー法を取り入れ、他の生徒に向けて発表する時間を確保。生徒は、事前に準備したワークシートを見せながら、自分の考えを発表することが可能に。



▲ワークシートを見せながら、説明の様子



デジタル教科書の使い方

生徒が自分の考えを発表する際、デジタル教科書の資料を示すと、根拠を明確にした説明が可能となるだけでなく、言葉だけで伝えにくい内容も表現しやすくなる。

# デジタル教科書活用のポイント

本事業にご協力いただいた各実証校の授業改善から得られた示唆をもとに、教科を横断したデジタル教科書等のポイント及び教師の指導のポイントを整理しました。教科ごとのポイントなど更なる詳細を知りたい場合には[成果報告書](#)もあわせて参照ください。

## デジタル教科書等を活用した学び方のポイント

## 教師の指導のポイント

個別最適な学び



### ■動画・音声・シミュレーション機能を使って理解促進

- ✓ 外国語では、音声読み上げ機能やアニメーションを使って、教科書本文の場面を把握
- ✓ 算数・数学では図形を動かせるコンテンツ、理科ではシミュレーション機能などで、視覚的な理解を促し、見通しをもたせる際に有効



### ■書き込み機能を使って粘り強く試行錯誤

- ✓ 算数・数学では、図表への書き消しなどが容易なため、子供が試行錯誤しながら自分の考えを表現する場面で有効
- ✓ 国語では、本文に色分けして線を引くことで、叙述に基づいて考えを整理することが可能



### ■デジタル教科書から本文や資料を抜き出して自分なりに整理

- ✓ 本文抜き出し機能(国語)やスクリーンショット機能(理科・社会)を使うことで、デジタル教科書本文や資料を簡単に抜粋でき、複数の情報を関連づけながら整理する際に有効
- ✓ デジタル教科書の資料は、拡大して細部まで確認することができるため、写真や地図中の詳細な特徴を捉えることができ、情報整理の場面で役立つ

- ✓ デジタル教科書による学び方が多数ある中、それぞれの学び方のメリットを伝えることや、それを子供たち自身で体験しながら理解できるような授業設計が重要

- ✓ 教科書の本文や図表に書き込みながら考える際は、最終的に他者に説明することを意識しながらまとめるように指導

例) 単なる答えだけでなく自分の考えを補足させること 等

- ✓ 資料が多くある活動では、何から着目していけばいいかわからない子供もいるため教師のフォローも必要

- ✓ 良いまとめ方をしている子供を取り上げて何故そのようにまとめたのか、意図を深掘りすることも有効



デジタル教科書で個別最適な学びを進め  
その成果を他者に共有・発表



協働的な学びの成果を  
個別最適な学びに還元

協働的な学び



### ■学習支援ソフトも組み合わせ、考えを共有・蓄積

- ✓ 学習支援ソフトを組み合わせ、ワークシートに整理した自身の考えを共有することで、他の子供の考えを参照・比較することが可能
- ✓ 自身の考えを説明する際には、デジタル教科書の動画・音声・シミュレーション機能を補助的に使用したり、デジタル教科書から抜き出した本文や資料を示したりすることで、より分かりやすい説明を実現

- ✓ 子供たちが目的意識をもって協働学習に取り組めるよう、個別学習の時間を設け、自身の考えをクリアにすることが重要

- ✓ これまでの学びの中で重要なポイントを板書等で押さえることも必要

# Appendix

---

## 関連コンテンツ

本書のほかにも、令和7年度「学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業」の成果は、以下にとりまとめています。あわせてご参照ください。

### 成果報告書

#### 【デジタル教科書を活用した授業改善】

本事業の実証研究校での授業改善の取組を詳述した報告書。外国語／算数・数学／国語／理科／社会の5教科について、それぞれ2回ずつ授業実践に取り組み、その結果を掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_2.pdf)

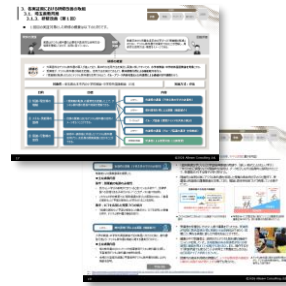


#### 【デジタル教科書の活用に関する研修】

本事業に参加した各県の研修内容を詳述した報告書。各県が実施した2回の研修に関する研修計画の詳細や検討過程、研修効果の検証に関する諸情報(受講者へのアンケートの結果等)を掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_3.pdf)

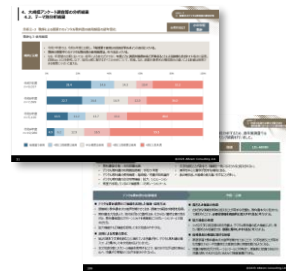


#### 【デジタル教科書に関する大規模アンケート調査】

全国の小中学校の教師・児童生徒を対象にしたデジタル教科書に関するアンケート・ヒアリング調査の結果をまとめた報告書。授業改善の効果や紙の教科書との比較、研修を受けた経験と活用状況との関係などの分析結果を掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_1.pdf)



### 動画

#### 【デジタル教科書を活用した実践事例を知る】

デジタル教科書等を活用した授業改善の実践事例を紹介する8分程度の動画。算数・数学／国語編と理科／社会編の2本。具体的な授業の様子を有識者の解説も交えて紹介し、授業者・児童生徒のインタビューも収録。



[https://youtu.be/hzE\\_cYZQNV4](https://youtu.be/hzE_cYZQNV4)

(算数・数学／国語)



<https://youtu.be/Kj1TR7Znmjk>

(理科／社会)

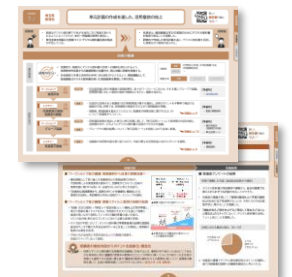


### 研修改善事例集

本事業で実施した5県の研修の概要を紹介した事例集。各県が行った2回の研修を取り上げ、その内容や成果について、研修の全体像を紹介した上で、研修の中心となる活動の詳細と工夫したポイント等を、有識者や各教育委員会担当者の声を交えて紹介。また、受講者にとったアンケート結果から研修効果についても掲載。



[https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761\\_5.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20260518-mxt-kyokasyo-000049761_5.pdf)



## 有識者会議委員一覧

(敬称略)

役割	氏名	所属・職名※
主査	中川 一史	放送大学 教授
副査	中橋 雄	日本大学 教授
授業改善に係る指導助言	外国語	太田 洋 東京家政大学 教授
	算数・数学	岡部 恭幸 神戸大学 教授
	国語	佐藤 幸江 放送大学 客員教授
	理科	岩崎 有朋 札幌国際大学 教授
	社会	小林 祐紀 放送大学 准教授

## 実証地域・実証研究校一覧

実証地域	実証研究校	教科
鹿児島県鹿屋市	鹿屋市立鹿屋中学校	外国語
福井県越前町	越前町立糸生小学校	算数
奈良県奈良市	奈良市立ならやま小中学校	国語
熊本県山都町	山都町立矢部中学校	理科
埼玉県深谷市	深谷市立藤沢中学校	社会

※ 有識者会議委員の所属・職名は令和8年3月現在

事業委託者

---

**文部科学省初等中等教育局**

〒100-8959 東京都千代田区霞が関三丁目2番2号

事業受託者（制作）

---

**アビームコンサルティング株式会社**

〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目2番1号